

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790200103		
法人名	医療法人社団厚仁会		
事業所名	グループホームこうじん		
所在地	丸亀市松屋町11番地1		
自己評価作成日	令和7年10月1日	評価結果市町受理日	令和8年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360番地111
訪問調査日	令和7年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームはJR丸亀駅から近く、駅のバス停には空港へのバスが発着しています。また、主要県道も近くを通っており、お訪ねいただきやすい場所にあります。丸亀城も近くにあり、ホームからお城までの道のりには通町商店街があり、お店を眺めながらお散歩したり、お買い物にお出かけいただけます。市役所や郵便局も徒歩圏内にありますので、お手続きなどの必要があればスムーズに行うことができます。協力医療機関が併設しており、24時間体制で、医療・看護が受けられ、安心してお過ごしいただけます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

本事業所は、丸亀城の麓に位置し、JR丸亀駅や商店街からも近接した、町の中心地域に所在する1ユニット定員9名の事業所である。立地条件により地域との結びつきが強く、利用者は近隣住民が中心で、長年の顔なじみである方も多い。これにより、事業所内は和気あいあいとした家庭的な雰囲気が形成されている。運営母体である医療機関は、古くから地域住民に親しまれてきた歴史があり、この信頼は事業所の運営にも反映されている。地域住民からの理解と協力にも恵まれており、地域における認知症支援の中心的役割を担っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	ホ 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心・笑顔・気配り」の理念は、ホーム立ち上げ当初職員が案をつくり、経営者と相談して掲げるようになりました。入居者様のお気持ちに寄り添うことが理念の根幹にあり、日々のミーティング等において共有を確認しています。	理念については、従来より「安心・笑顔・気配り」を理念として掲げ、日々の業務に取り組んでいる。加えて本年度は、利用者や職員が協力して策定した抱負「健康」を新たに設定し、毎日唱和することで理念と抱負の浸透を図っている。これらの理念および抱負を職員間で共有することにより、職員一人ひとりの意識向上を促すとともに、利用者に対して、よりタイムリーで質の高いサービスを提供できるよう取り組みを進めている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今は特にホームのご近所まで過ごされてきた方々のご入居が多く、ご近所さんにホームをお訪ねいただいたり、お散歩の際にお声をかけていただいたりしています	利用者の多くは近隣に居住し、古くから地域で生活してこられた住民である。散歩などで地域の方と顔を合わせた際には、自然と地域の歴史や思い出に関する会話が生まれている。城下町として培われてきた温かい人情が今も息づいており、地域との交流は日常的に行われている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームに併設し、協力医療機関があり、介護現場での実践に加え、医療・看護分野における専門的な見地から認知症への理解や支援について地域の方々に発信しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お話ししやすいリラックスした会議の雰囲気づくりを行い、入居者様からご意見をうかがえるように努めています。民生委員さんや自治会の皆さん市の介護支援課の職員さんからアドバイスをいただいています	運営推進会議については、行政・民生委員・自治会の方々に加え利用者・家族・医師・職員が参加している。利用者は近隣地域の方が多く、互いに顔なじみであることから、自治会の会合のような雰囲気でも活発に意見交換が行われている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時、市の高齢者支援課の担当者様とホーム運営について等お話をしています。介護計画書作成にあたり、アセスメントの方法や現状の課題についてアドバイスをいただいています	運営推進会議においては、行政担当者より介護計画書等に関する助言を受けている。また、日常の定期的な報告等にも積極的に相談を行っており、行政との協力関係は極めて良好である	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行っています。担当者をつくり、勉強会の資料や情報の収集を職員自身が行い、ケアに活かせるように取り組んでいます	身体拘束については定期的に身体拘束適正検討委員会を開催するとともに、日々のミーティング等においても職員間で意見交換を行い、身体拘束のないケアの実践に努められている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様のお気持ちに寄り添った介護を目指しています。ミーティングを通じて、職員どうしで情報の共有を図り、不適切なケアの予防に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の社会福祉協議会の職員さんからアドバイスを受け、権利擁護についてお話を聞きしたりご相談したりしています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、キーパーソンに加えて可能であれば利用者様が信頼できる他の家族の方にも同席していただき、十分なお説明が行えるように配慮しています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	協力医療機関への受診時やサービス担当者会議、運営推進会議にご家族に出席していただき、ご意見をうかがっています。また、面会時には、どの職員でも挨拶だけでなく何でも気軽に話いただける雰囲気づくりに努めています	運営推進会議やサービス担当者会への出席を促し、その場で意見や要望を伺っている。また、面接時や協力医療機関への受診時にも利用者・家族の要望を丁寧に聞き取り、支援に反映させている。日頃から意見や要望を伝えやすいよう、職員は利用者や家族とお互いに話しやすい雰囲気づくりに努められている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体の朝礼に、管理者以外の職員も交替で出席し、経営者と直接話せる機会をつくっています。その他ミーティングや運営についての研修時にも意見や提案を聞く機会をつくっています	法人全体の朝礼や各種ミーティングにおいて、職員からの意見や要望を積極的に聴取するよう務められている。また、職員アンケートの実施や人事制度の整備も進められており、職員の声を反映するための体制が整っている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケートや自己評価を通じて、勤務状況の把握を行っています。管理者は、職員ひとりひとりが、毎日気持ちよく勤務できるような様子に配慮するとともに、気軽に話してもらえる雰囲気づくりに努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無理し過ぎず研修が受けられるように配慮しています。外部講師によるWeb研修が受けられるようにしています。研修に参加したり、資格を取得すれば評価する仕組みをつくっています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の認知症実践者研修を受けることを通じて、他の事業所の職員と交流できる機会をつくっています。系列の他法人の職員との連絡もあり、サービスの質の向上につなげています		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前には、本人様がいらっしゃる自宅や病院を訪問し、面会させていただいて信頼関係が築けるように努めています。また、ホームに見学に来ていただいた時に、気軽に話していただける雰囲気づくりに努めています			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	リラックスして、お話ししやすい環境を整えお気持ちに配慮してお話を聞くようにしています。もともと地域で生活していたことも念頭に、関係づくりをすすめるようにしています			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様及び家族様からお話をおききすることはもちろん、担当のケアマネージャーさんや相談員さんとコミュニケーションをとり、できるだけ十分な情報が得られ、必要なサービスにつなげられるようにしています			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人様を人生の先輩として尊敬し、様々なアドバイスをいただいています。「ただいま」「おかえり」等の言葉に象徴されるような自然な関係が築けるように努めています			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	それぞれの入居者様の価値観を大切にしています。可能な範囲で共にケアができるようにしています。それぞれのご家族様との関係性を一方的な職員の価値観での対応とならないように気をつけています			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様以外にも知り合いや、ご友人、ご近所の方が、本人様に気軽に会っていただき、気持ちよく共に過ごせるよう配慮しています	利用者の多くが近隣地域の住民であるため、家族が来訪しやすい環境にある。また、長年の付き合いのある友人や知人も多く、面会に訪れる機会が自然と増えている。場合によっては、面会に合わせて食事を共にするなど、家庭的で温かい交流が行われている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お声をかけて、利用者様どうしがお話したり、いっしょに過ごす時をつくっています。無理のない範囲で、集団レクリエーションを行い、閉じこもり、気持ちが落ち込まないように気をつけています			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	急な体調の変化や入院されるケースもありますが、ご家族とも連絡をとりながら、随時お見舞いに出かけたり、ホームでの生活について個人情報の保護に配慮しながら入院先に情報提供を行う等しております		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お言葉でお気持ちや意向を伝えることが難しくなっているばあいでも、ミーティングを通じて職員どうしで日々のご様子について情報を共有したり、受診やリハビリ時の何気ない様子についてもおききして、ケアを行っています	普段の何気ない仕草や言葉を連絡ノートに記録し、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努められている。また、毎月のモニタリングについては担当制を導入し、担当職員が利用者の思いや状況を報告することで、職員間での情報共有を図り、より良いケアの提供につなげられている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、多職種と協力して、情報収集をするとともに、担当制により、一人ひとりの利用者様についてより深く理解し、暮らし方の把握ができるようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時間の流れに沿った記録を行い、ミーティング、カンファレンス等を通じて職員どうしでその情報を共有し、現状が把握できるようにしています。また、担当の利用者様のモニタリングを各職員が行い書式に記入することで変化を把握しています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議以外にも、家族様とは、面会時等随時お話を伺っています。また、病院受診時に医療関係者とお話しをして情報を得て介護計画作成に反映しています	毎月1回、モニタリングやカンファレンスを実施し、利用者の日常の行動から得られた気付きや、面会時に家族から伺った意見・要望について職員間で共有し検討されている。介護計画については、原則として3か月に1回見直しを行い、利用者の状況や意向に応じた適切な支援に反映させている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時間の経過に沿った記録をとり、日々の変化が把握できるようにしています。ミーティングやカンファレンスを通じて職員全員が、その時の状況を共有できるようにし、介護計画の見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の病院や通所リハビリと協力し、外出やレクリエーション、行事等に対応したり、病状等に応じた受診等の個別のニーズに細かく対応できるようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの商店街へ、日用品を買いに出かけています。入居者様ご自身でどこへ行くか、必要なものや好きなものを選んでいただきます。スマホを利用することもあります		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の病院と連携し、24時間の医療対応をとることができます。併設以外の専門の病院へも、ホーム入所前からの関わりを生かし、引き続き関係を維持して、専門の医療サービスが受けられるようにしています	経営母体である協力医療機関による定期的な医師の診療に加え、歯科医師による訪問診療や口腔ケア指導等の実施もなされており、利用者一人ひとりの健康状態に応じた適切なケアの提供に努められている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、入居者の皆様のご様子を報告しています。医師の定期的な回診があり、担当の看護師への申し送りが細かく行い、それぞれの健康状態、病状に対応しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時には、医師、看護師、病院担当者と連絡をとり、情報交換を行う体制をつくっています。ご家族様、医師の許可の上に病室を訪問し、ご本人様とお話し、退院に向けてスムーズに対応するように努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の契約時において、お気持ちに配慮しながら、終末期のことについてご本人、ご家族様とお話をしてご要望をおききしています。併設の病院の医師とも相談しながら、おひとりおひとりのお考えや健康状態についてよく理解した上で、事業所のとれる対応について丁寧に説明しています	入居契約時に、利用者および家族に対して方針等が丁寧に説明されている。その後は、利用者の心身の状況に応じて主治医や家族等と適宜協議し、最適なケアの提供に努められている。また、事業所での看取りについては2～3年に1名程度となっており、協力医療機関で終末期を希望される利用者も多く連携が図られている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行い、急変時の対応が適切に行えるように備えています病院、かかりつけの医師との連絡体制の確認を定期的に行っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ひとりで判断せず、連絡体制のマニュアルに沿って冷静に対応できるように、勉強会や訓練を通じて職員全員に対応方法の周知を図っています。地域や併設施設との連絡体制の確認に努めています	法律で定められている防災訓練に加え、連絡体制マニュアルを整備し、職員全体で災害発生時を想定した訓練が実施されている。また、水や食料の備蓄も確保しており、非常時に備えた体制が整えられている。さらに、駐車場が広く確保されており、一時避難場所として活用が計画されている	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「安心・笑顔・気配り」の理念に基づいて、人生の先輩として尊敬の念を持ちながら、言葉かけや対応ができるように職員一同努めています。勉強会を通じてこれらについて定期的に確認しています	入浴や排泄時等、利用者の羞恥心に配慮した対応の徹底に努められている。また、日頃の言葉使い等にも十分注意を払い、気付いた点があれば職員同士で随時話し合うなど、常に改善に務められており、利用者の尊厳とプライバシー確保に向けて積極的に取組まれている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で決めて何かしようという意欲的な時と、そうでない時等、その時の気持ちをできる限り理解するように努めています。無理なく気軽に、着たい服や食べたいものの希望が述べられる声かけや雰囲気作りをしています			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	作業上の効率を考慮してまいがちですが、全体の安全に気をつけながら、お散歩に出たい等の希望にそえるようにしています			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	事業所に理容師の方に来てもらうほか、ご家族様や地域のお店の協力を得て、なじみの美容室を利用することもあります			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もともとお食事に関する専門のお仕事をなさっていた方に教えていただいています。机やお盆をふいたり、それぞれできることを自発的に無理なく役割を担っています	食事については、経営母体である病院にて主菜・副菜等を調理し、事業所ではご飯とみそ汁を提供している。配膳やテーブル拭き、下膳などについては、利用者がそれぞれの能力に応じて職員とともに、にこやかに取組んでおり、食事の過程を通じて日常生活動作の維持・向上にも繋がっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お声をかけながら、無理せず食事や水分がとれるように援助しています。お茶やお白湯以外にもしょうが湯や飴湯、コーヒー、紅茶等その時のおやつ等と合わせる等工夫しています			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日常の歯磨き等口腔ケアのほか、歯科衛生士さんに来ていただき、口腔状態の確認やケアの際のアドバイスをいただいています			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安全を考えながらも、お気持ちを十分に考えて、ご希望にそった排泄方法がとれるようにしています。ひとつの方法にとらわれず状況に応じて柔軟に対応できるように気をつけています	排泄パターンを日頃から把握し、利用者一人ひとりが自立した排泄が継続できるよう積極的に取組まれている。また、声かけや柔軟な対応に留意し、できる限り自然な排泄と生活が継続できるような支援に努められている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師・看護師や管理栄養士とも協力して、無理のない自然な排便が促されるように努めています。排便は大切なことですが、あまりそのことばかりを気にしすぎて、気持ちが落ち込まないように配慮しています			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	楽しみにしているご家族様とのご面会やリハビリ等お一人おひとりの時間、ペースに配慮しています。入浴剤を使用したり、季節感を味わえるように工夫しています	入浴については、月曜日から土曜日を入浴日として設定し、利用者は週2回の入浴を楽しまれている。また、身体状況に応じ、別棟に設置された特殊浴槽を使用し、安全で負担の少ない支援も実施されている。更に、ゆず湯や菖蒲湯など季節に合わせた入浴も提供しており、利用者が四季を感じながら快適に過ごせる工夫もなされている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、ご希望や体調に合わせてお昼寝等していただいています。夜間、眠れない場合は、ラジオや音楽を利用することもあります			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容のファイルを作成し、随時確認できるようにしています。薬剤師と連携し、適切な服薬の支援ができるようにしています			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理なく自発的に役割を持っていただくようにしています。人生の先輩として、職員が何かご相談したり、ご意見をおききすることもあります			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームが商店街に接していること、お城が歩いて行ける範囲にありますので、戸外にでかけるには恵まれた環境にあります。ご家族様の協力を得ながら、市域を超えての外出もしています	事業所が町の中心部に位置しており、商店街での買い物やお城での菊花展など、散歩を楽しむ機会に恵まれている。地域住民とは顔なじみも多く、外出時には自然な交流が生まれるなど、利用者が気軽に散歩を楽しめる良好な環境が整っている	市内はもとより、琴平・善通寺・坂出など近隣市にも名所・旧跡が多く存在する恵まれた環境を更に活かし、日常的な散歩や交流に加え、ちょっとした遠出の機会が増える取組みが進められることに期待します	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様ともよく話し合い、商店街での日用品のお買い物や、散髪のお支払いをご自分でなさっている方もいます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	連絡がとりたい時にとれるよう、援助しています。個人情報の保護に留意しながら、お電話の操作方法等を援助しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓からの採光を生かして自然で落ち着いた雰囲気になるように配慮しています。屋外の環境状態に気をつけながら、随時窓の開閉を行い換気と温度の調整をしています。季節感のあるカレンダーや掲示物を利用しています	天窓から温かい自然光が差し込む広々とした明るい空間で、利用者は思い思いに自由な時間を過ごされている。壁面には職員とともに制作した切り絵やカレンダーなどが飾られており、季節感のある落ち着いた雰囲気作りにも務められている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机やいす、ソファの配置を工夫し、テレビを見たりお話をしたり、本を読んだり、思い思いに過ごせるように配慮しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用なさっていた机やいすを使用している方もいます。ホームでのご様子の写真や、ご家族様の写真を置いている方もいます	明るく清潔感のある居室にて、利用者は家族の写真や愛着のある家具、テレビ等を持ち込み、これまでの生活の延長として、思い思いに自由な時間を過ごしている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室から、お食事をとるテーブルやテレビを見るソファ、トイレ等へ至る動線を、一人ひとりの状態を考えて、テーブル等それぞれ配置しています。トイレの場所が分かりやすいように標識を付けています		